

# 岩見沢市立光陵中学校 校内研究紹介

研修担当 辻浦一裕

研究主題:「子どもと共に創る学校」を目指す授業づくり

教科・領域:全教科・全領域

公開研究会:10月29日～31日

参加対象:空知管内市町

多くの生徒が学ぶ光陵中において、生徒一人一人が主体的に学び続けるためには、「子どもと共に創る学校」という共通認識の上で、各教科の授業の中で、どのような実践がより子供のためになるのかを議論する必要がある。この際、教科部会、学年部会等など様々な視点から考え、職員集団で共有することにより、職員一人一人が取り組みを進めながら協働することが求められる。

この主題について、令和5年度は以下の2つを柱に実践を行った。

- 授業づくり「光陵版子どもと共に創る授業」(教科研修)
- 学級集団の形成(ピアサポート)

この実践から、生徒が自ら情報を得て、整理・選択をして自分の考えに活かすことができたと感じていることが明らかとなった。



令和6年度は、「自立した学習者の育成」を重点とし、子ども主体の授業づくりのため、これまで授業で取り組んできた「教えて考えさせる授業」を基盤としながら、「深化問題」を「複線型」にする、単元構成の中で「自由進捗学習」を取り入れるなど、光陵中全体で光陵中生徒の最適な学習方法を模索した。

校内研修では、職員32名が担当する教科について、自由進捗・複線型・教えて考えさせる授業から選択し、選択した方法についてグループを作成し、授業の構築を図った。

この実践後、生徒へのアンケートから、以下のようなことが得られた。

自由進捗、複線、教えて考えさせる授業について 効果があった(肯定的な回答)	90%
他者と話し合うこと・理解に差がある場合も含めて 効果があった(肯定的な回答)	90%



生徒は、様々な授業・学習方法について、自分の学習に効果があると感じ、今後も複数教科で継続することを望んでいた。しかし、他者との協働の中で課題を解決するという部分には依然として課題が残り、次年度にむけて次の2点について迫ることが必要であると考えます。

- 多様な学び方を生徒に経験させ、その経験を振り返らせることで、より良い学びを身に付けることができるようにすること
- 情報を処理するだけでなく、人が発信する微妙な意味合いを読み取って解を作るなど、他者との関わりの中で答えを見つける